フィールドワーカーが挑む 外交の最前線

外務省 アフリカ部 アフリカ第二課
外務事務官
長田　智恵美 氏

―大学院での研究分野を教えてください

大学院では環境工学を研究していました。高校生のころ留学したニュージーランドで、日本のように自由に水が使えない環境に身を置き、水環境を研究したいと思ったことがきっかけです。

大学院では主にマレーシアの水質汚染を研究。マレーシアでは生活排水の拡散以外にも、パームプランテーション増大による水質汚染が問題になっています。パームオイルは日本でも有名ですが、各国に輸出して売れるので、マレーシアでは「金のなる木」と呼ばれるほどの人気。コーヒーやゴム農園からパームプランテーションへの転換が進んでおり、農薬使用量の増加や土壌の変化が河川水質に影響を及ぼしています。この速度でパームプランテーション化が進んでいったら何年後にどうなるかを解析していました。

―具体的にはどのようなフィールドワークをしていたのですか

マレーシアの河川流域を対象に、ソフトを用いて河川の汚染物質のモデル解析をします。マレーシアで現地の学生とともにサンプリング及び水質解析を行い、そのデータを基にソフト上で再現して予測シミュレーションをしていました。全く違うバックグラウンドや価値観を持つマレーシアの学生たちと共同研究するというのは私にとって大きな学びになりました。

―外務省の職員を目指されたきっかけはありましたか

もともと途上国や国際協力に興味がありました。ただ当初は研究と仕事を結びつけて考えてはいませんでした。でも外務省のパンフレットに〝国際協力は国益追求の一手段である〟と書かれたものを目にし、今まで自分の中になかった観点から国際協力を捉える職場ってどういうところなんだろうと感じたことが、外務省で働くことに興味を持ったきっかけですね。

— 今はどのような業務を担当されているのですか

入省後にアフリカ第二課という課に配属されました。そこは主に東アフリカと南部アフリカの17か国及びアフリカ開発会議（TICAD）という国際会議を管轄している課です。私は課内、省内、関係省庁との調整窓口業務や、管轄国中1か国の担当、課内の各国担当官の補佐業務などにあたっていました。その他には各国の要人の来日時の準備や対応、または日本政府から要人がアフリカに行くときの準備など。小さな事務手続きから首脳会談の調整までトータルしてサポートする業務です。

— アフリカ17か国の担当官はどのような仕事をするのですか

担当官ひとりあたり2、3か国を担当するのですが、担当する国に関する情報は毎日集め、有事の際はそれらの対応をします。その国だけではなくて、アフリカと第3国（日本とアフリカ以外の国）との関係も見る必要があり、担当の国がどういった外交をしているかという情報についても触れていくので、関わる国は増えていきます。

— 幅広い知識が必要とされるため学ぶことが多いと思いますが、どのようなことを学びましたか

外務省の仕事は、地域外交、安全保障、経済、国際協力、広報文化など多岐にわたります。しかし、どのような場面でも常に世界を舞台に仕事をしており、当然それぞれの国の価値観や立場、守りたいものは異なります。アフリカひとつとっても歴史も文化も宗教も価値観も全てが違う国の集まりですから、我々は常に彼らの立場に立つことが必要です。もちろん幅広い知識は必要ですが、相手の立場に立って物事を考える想像力や、相手の文化やバックグラウンドに敬意を持つことが一番大切だと思います。こちらの普通があちらの普通ではないので、相手のことを学びながら接する、という姿勢ですね。そのような違いをお互いに理解し信頼関係を築くことの重要性を、実際に業務をしながら肌で感じました。

— 多くの国々と関わることの魅力や苦労を教えてください

国際会議の準備やアフリカ各国の要人が日本に訪問する際に苦労するのは、調整段階でこちらの意図と相手の受け取り方が国によってそれぞれ違うときです。これはお互いに苦労を感じる点だと思いますが、どんなに細々したことにもひとつひとつきちんと対処しなければ、会談の成功はありえません。我々の行動ひとつで評価が変わるのでとても緊張感があります。でも、相手国の要人が訪日の予定を終えて日本を発つとき、「訪日の内容は非常に良かった」という一言を聞けた瞬間に、全てが報われてやりがいを感じます。

— 相手国の要人に訪日の内容が評価されるときは、どういう点が評価されるのでしょうか

相手の興味、関心にできるだけ沿えるよう日程を組み、日本を楽しんでほしい、有意義な時間にしてほしいという関係者一人ひとりの思いのもと、おもてなしをしている点だと思います。鉄道が好きという情報を得れば、新幹線に乗れるプログラムを考えたり、その国への日本企業の進出を後押ししたいというバックグラウンドがあれば、企業と触れ合える機会を設けたりするなど、ひとつひとつのきめ細やかなサポートが評価に繋がっていると思います。

— 外務省職員として採用されるための試験対策は大変でしたか

国家公務員試験の試験区分によって事務官採用、技官採用となる多くの他省庁とは異なり、外務省は文系、理系区分に関わらず事務官として採用しています。私は理系の区分で受けましたが、大学院で専攻した分野に近い内容で試験を受けられたので、試験対策は比較的やり易かったです。

— 外務省を受けるにあたって何か就活エピソードはありますか

国家公務員試験に最終合格しても省庁で働ける訳ではありません。最終合格者のみが受けられる官庁訪問というものがあり、こちらがいわゆる採用面接のようなものです。希望する省庁に訪問し、面接を受け最終まで残ることができれば、やっと内定が出ます。外務省では、この面接において省内で働く人から業務内容を直接説明してもらえる機会があります。学生にとってたくさんの外務省職員と話す機会はとても貴重ですし、知らないことだらけなので、私は話を聞くのが楽しくて仕方なかったです。緊張しましたが、最前線で働く人と2、30分話せるのはありがたい機会でした。実際に多くの職員から話を聞く中で、魅力的な人がたくさんいると感じ、この環境で多くのことを学んで自分を成長させたいと強く思いました。

— 長田さんのように理系分野から入省された方は入省後に法律や外交について勉強する必要があるのでしょうか

そうですね。配属される部署によって必要な知識は様々ですが、国際法や外交史などは外務省で働くにあたって基礎的な知識ですので、時間を見つけて勉強中です。

— 多くの国と関わるうえで大学院での経験は活きましたか

一番心に残っているのが大学院のときに

教授から言われた言葉です。「どんなときでもハートを忘れるな。日本は技術が発達しているが、その技術を他国で応用するときに強制的に強いるのではなく、相手が何を望んで、何を思って今の現状があるのかを絶対に忘れてはダメだ」と。

例えば私たちは当たり前のように川にゴミを捨ててはいけないと言うけれど、他の国のある地域では、「毎日生きるのに精一杯な中でなんで川のことを気にしなきゃいけないの？」という考え方があることを知りました。知らない間に自分の価値観を押し付けていることがあるのです。彼らの守るものが必ずしも私たちの価値観と同じではないということを念頭に置けているのは、教授の言葉やフィールドでの経験があったからこそ。大学院での経験は役に立っています。

— 今後のキャリアについてどのようにお考えですか

入省3年目から2年間の在外研修があり、私も今夏からアメリカに行きます。国際関係、公共政策を学んだりロースクールに行ったりする先輩が多いですが、私は前から興味のあった、公衆衛生分野の勉強をしたいと考えています。地域での衛生問題に取り組み、私が外務省職員としてできることを模索していきたいと思っています。

— 現在、外務省では理系の知識を持った職員を必要としているのでしょうか

公務員試験に技術系区分で受かった人と事務系区分で受かった人の間で外務省の官庁訪問における差はないと思います。最近では、科学技術外交という言葉も飛び交うようになり、科学技術をひとつの外交ツールとして捉える動きが出てきているので、多様な人材が必要とされていると思います。

— どういう方に外務省に来てほしいと思いますか

来てほしいと偉そうなことを言える立場ではないのですが、一緒に働けて良かったと思える人はユーモアを持って新しいことを楽しめる人ですね。思ってもみなかった問題が目の前に立ちはだかったり、うまくいかないときに、ネガティブにならずにユーモアを交えてその場の空気を和らげる先輩を外務省で見てきました。困難な状況下でも心に余裕がある人は凄いと思います。柔軟に物事を考えられて目の前のことを全力で楽しもうという姿勢は私も見習っています。ぜひそういう人と一緒に仕事がしたいです。

— 最後に大学院生へのメッセージをお願いします

大学院に進むと、自分が研究をしてきたことを社会に還元したいという思いが強くなると思います。それは重要だとは思います。でも社会は学生の立場で感じているよりもずっと広いです。自分はこれを研究してきたから仕事はこれだ、と絞りすぎないで模索してみてください。多様化している時代の中で、働くこと自体に対しても、自分はどういうことにやりがいを感じる人間なのかを掘り下げてみてほしいです。様々なことを想像して自分の専門分野以外にも目を向けて、気になることにはどんどん挑戦し、視野を広げて日々を過ごしてほしいと思います。

INFORMATION

イベント情報

- **女子学生霞が関インターンシップ**（2017年9月開催）
- **理系が活躍できる国家公務員の仕事研究セミナー**（2017年夏開催）他、随時開催

イベントに参加して、国の屋台骨を支える公務の魅力に触れてみませんか？
イキイキ働く将来設計につながると思います。

イベントの詳細はこちら →

取材協力：内閣官房　内閣人事局

国家公務員は、医療、教育、国の財政運営・産業振興、外交・防衛など、世の中のありとあらゆることに関して日本が抱える様々な課題を政策により解決していく仕事です。当局は国家公務員に関する諸施策を担当しており、その中で国家公務員という仕事の魅力を伝えるというミッションを担っています。